

第43回粘土科学討論会報告

第43回粘土科学討論会が、1999年9月16日(休)から18日(出)まで、岡山県倉敷市の倉敷芸術科学大学で開催された。特別講演が1件、6名の演者によるシンポジウムが行われ、一般講演では口頭発表47件、ポスター発表48件の合計95件が発表され、それぞれ活発な討論が行われた。この一般講演数はここ数年では最多であった。また、賛助会員による資料展示もあわせて行われた。昨年行われた口頭発表者のポスター掲示は、会場の都合から今回は行うことが出来なかった。討論会の参加者数は、名誉会員3名、正会員108名、学生会員23名、その他44名、の合計178名であった。

討論会1日目の9月16日は、午前8時20分に受付(写真1)が開始され、9時から口頭発表(写真2)の一部が行われ、11時15分から倉敷芸術科学大学芸術学部の浅見 薫教授による「日本陶磁雑感・『その技を振り返って』」と題する特別講演(写真3)が行われた。続いて午後からは「環境汚染と粘土」というテーマでシンポジウムが開催された。はじめに、愛媛大学農学部の松田宗明氏による「土壌生態系での環境汚染の実態」、静岡県立大環境科学研究所の相馬光之・谷 幸則両氏による「底質、土壌中の汚染物質の挙動と粘土」、岡山県生活環境部の鍋島数之氏による「岡山県における地下水の常時監視等の概況について」の環境汚染に関する実態報告がなされ、次いで、岡山大学環境理工学部の三宅通博氏による「ゴミ焼却灰の有効利用」、豊順洋行(株)の古賀 慎氏による「廃棄物処分場と粘土科学とのかかわり」、(株)豊田中央研究所の臼杵有光氏による「粘土-ポリマーナノコンポジット材料の環境への貢献について」の粘土鉱物の環境問題への貢献に関する報告がなされた。その後、6名の演者が壇上にあがり、あらかじめ配布された質問票に基づいて活発な討論が行われた。このシンポジウムは、今回初めて一般市民に公開する形で開催されたことから、地元の新聞社・放送局からの取材がかなりあり、事前に新聞紙上にも掲載された。しかし、残念ながら一般の参加者は数名であり、今後公開の形式をとる場合にはかなりの工夫をする必要があると思われた。夜は、会場を学内の厚生会館に



写真1 受付

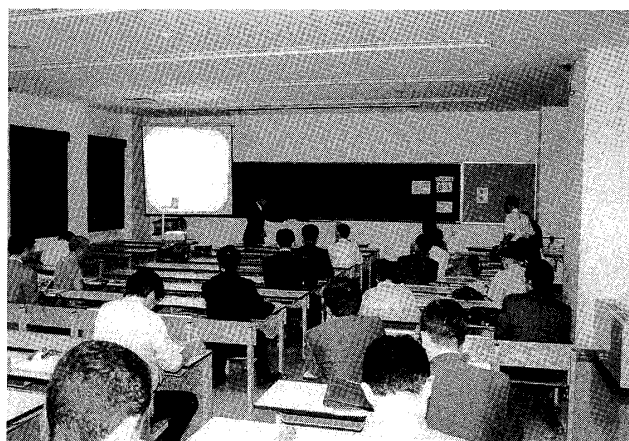


写真2 一般講演

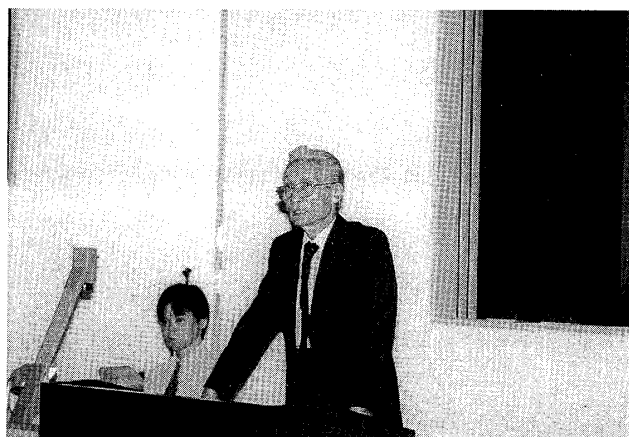


写真3 浅見薫先生による特別講演

移して、特別講演とシンポジウムの演者、大学関係者などの招待者を含めて約100名が参加して、懇親会（写真4）が盛大に行われた。

2日目は、前日に引き続いて口頭発表の残り poster 討論（写真5）、および日本粘土学会総会が行われた。総会では、シニア会員新設に伴う会則変更が承認され、論文賞・優秀講演賞新設に伴う学会賞の変更が報告された。また、伊藤瑞章、白水晴雄、渡邊 裕、和田光史の4氏が長年の学会活動に関する貢献により名誉会員に推挙された。さらに、日本粘土学会各賞の授与式が行われ、会長より北海道大学の山岸皓彦会員に対して学会賞（写真6）が、名古屋工業技術研究所の前田雅喜会員に対して奨励賞（写真7）が、ニッコー株式会社に対して技術賞（写真8）がそれぞれ贈られた。これに関連して、カナダ農業・農産物研究所の児玉秀臣会員に対して功績賞がユーロクレ-

'99の折りに贈呈されたことが報告された。

3日目は、笠岡市東大戸のベントナイト鉱床と吉備路遺跡巡りなどの見学会（写真9）が開催された。参加者は33名と近年になく多く、大変熱心に試料採取や現場での討論が行われ、有意義な見学会となった。

なお、討論会期間中に今年度から新設された日本粘土学会「優秀講演賞」の審査が行われた。この結果は別に報告される予定である。

おわりに、ご多忙な中を特別講演やシンポジウムの演者をお引受けいただいた諸先生方、ご協力いただいた加計学園倉敷芸術科学大学当局をはじめ関係各位、並びにご共催いただいた学協会に、この場をお借りし篤く御礼申し上げる。

（行事委員・大谷朝男、小林祥一）



写真4 懇親会における富田会長の挨拶

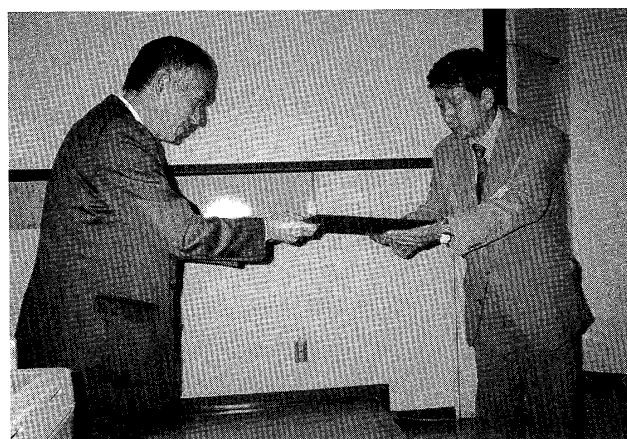


写真6 山岸皓彦会員・学会賞

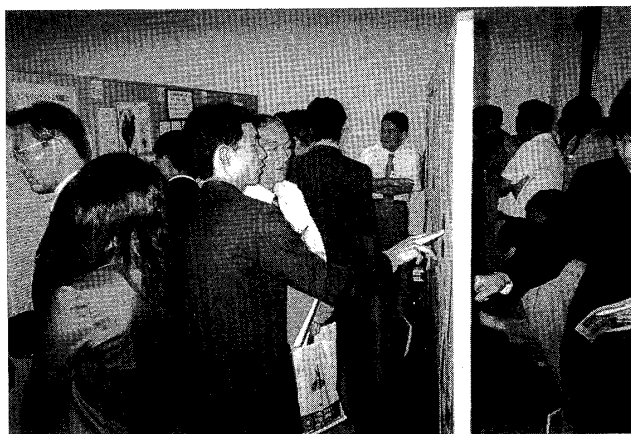


写真5 ポスター会場

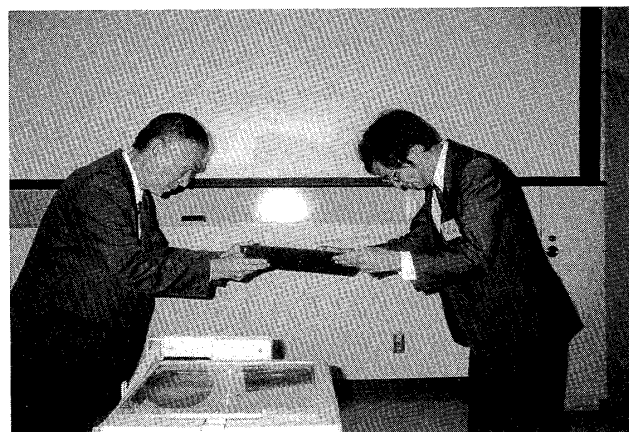


写真7 前田雅喜会員・奨励賞



写真8 ニッコー株式会社・技術賞



写真9 見学会 (笠岡ベントナイト鉱床にて)

日本粘土学会平成11年度優秀講演賞受賞者の表彰

日本粘土学会学会賞等選考委員会

優秀講演賞は粘土科学討論会の活性化を図るため、学生会員を含む若手研究者を対象として、口頭講演発表者及びポスター講演発表者の中から優れた講演者を表彰する目的で、平成11年9月16日付で新設されたものです。このことが若手研究者の励みや利益になり、討論会の活性化に繋がることが期待しています。学生に限り、会員外からも選考できることが内規に盛り込まれています。選考方法等は以下の通りです。

受賞対象者は粘土科学討論会に提出された講演あるいはポスター講演の直接の発表者であり、発表時において原則として35歳以下の若手研究者個人を対象とし、発表方法や内容の特に優れたものに対して優秀講演賞（4編以内）の表彰を行うものです。

選考方法は対象となる講演及びポスター講演の受賞対象者について、学会賞等選考委員会が審査及び選定を行い、表彰状を講演会終了後2ヶ月以内に受賞者に送付致します。受賞者として口頭講演者2名以内及びポスター講演者2名以内を選定致します。表彰結果については評議員会に報告し、粘土科学に掲載いたします。

第43回粘土科学討論会は平成11年9月16-17日にかけて倉敷芸術科学大学で開催されました。今年度の優秀講演賞はA講演（対象講演数15件）とB講演（対象講演数13件）から1件ずつ及びポス

ター講演（対象講演数27件）から2件の計4件が選定されました。平成11年度優秀講演賞は下記の通りです。これらの受賞者には、その栄誉をたたえ、さらに一層の研鑽を積まれることを期待致します。

今年度は選考することを予め公表できなかったのですが、次回の討論会からは優秀講演賞を選考することを前提に講演募集を行い、プログラムを編成致します。多数の若手研究者の参加を期待しています。

平成11年度優秀講演賞受賞者

- (1) 早稲田大学理工学部 辻村政史 氏
講演 A 6 「フッ素四ケイ素雲母-ポリビニルピロリドン層間化合物中でのルテニウムトリスビピリジン錯体の挙動」
- (2) 名古屋大学大学院工学研究科 平井 周 氏
講演 B 11 「遷移金属を有するLDHの層間における金属ポルフィリンのインターカレーション」
- (3) 岩手大学工学部 會澤純雄 氏
ポスター講演 P 10 「Mn-Al系層状複水酸化物の合成とその特性」
- (3) 金沢大学大学院自然科学研究科 石田義人 氏
ポスター講演 P 24 「浮遊性アルミニウム粒子に富む海水の色調変化とその要因」